

福祉みささ

第204号

2023年8月1日



新役員決定

就任挨拶

会長 岩本 美樹



このたび、理事の互選により会長に就任いたしました。誰もが安心して暮らせる福祉の町をめざして取り組んで参りますので、引き続き皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、社会情勢や生活環境の変化により、介護問題をはじめ、生活困窮や引きこもり、権利擁護、ヤングケアラーなど、福祉課題もより多様化し、これらの問題を解決するための公的制度も充実されてきました。支援を必要とする人にサービスが適切に届くための仕組み作り、また公的施策だけでは対応しきれない問題の解決に向けて取り組むことが社会福祉協議会の大きな役割だと考えます。

一方、誰もが安心・安全な日常生活を送るために、見守りやちよっとした助け合い活動など、地域への期待も大きく、住民同士の支え合いは不可欠です。住民同士の支え合いの第一歩は、同じ地域に暮らす良き隣人として、困っている人・支援を必要としている人に気づくこと、そしてあたにかい声をかけてあげることだと思えます。

「誰からも気づかれず、独りで困っている」。そういう人がいなくなるよう、地域福祉の推進に皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

退任挨拶

前会長 遠藤 英臣



皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度任期満了に伴い令和5年6月13日をもちまして、三朝町社会福祉協議会の会長を退任いたしました。

平成26年8月に就任してから約9年という長い間、皆様方のお力添えにより微力ながら会長としての役目を全うできたことに厚く御礼申し上げます。

振り返りますと、行政職員時代から社会福祉協議会とは多く関わりがございました。平成4年に完成した町立福祉センターレスポワール建設の際には担当職員として、介護保険制度が始まって1年経過した平成13年4月から3年間は事務局長として。そして最後は会長として務めさせていただきました。

任期中は、住民の皆様をはじめ各関係団体や行政のご協力をいただきながら各種事業を推進してまいりました。社会福祉協議会の本分である地域支え合いや相談支援活動の推進はもとより、介護保険事業並びに財政基盤の健全化を掲げ、組織体制強化を図りながら運営に取り組んでまいりました。この様々な取り組みが将来の三朝町の福祉向上に繋がるものと期待しております。

現在、三朝町はもとより全国的に少子高齢化が進み、社会構造や家族環境が大きく変化している中、地域で住民同士支え合える関係・体制作りがより一層問われているとともに、社会福祉協議会への期待も更に大きくなってきました。

結びに当たり、新会長のもと、三朝町社会福祉協議会が今後も益々発展し、地域福祉が更に推進されることをご祈念いたしますとともに、これまでお力添えを賜りました皆様方に深く感謝を申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。

役員紹介(任期：令和5年6月14日から令和7年定時評議員会まで)

役職	氏名	選出区分	役職	氏名	選出区分
会長	岩本 美樹	学識経験者	副会長	布廣 覚	学識経験者
理事	岩本 志信	民生児童委員協議会	理事	高野貴美代	ボランティア団体
理事	田栗 幸人	福祉関係団体	理事	谷川 博恒	福祉関係団体
理事	徳田修一郎	地域協議会	理事	徳田 和秀	福祉事業経営団体
理事	矢吹 和美	行政関係者			
監事	朝倉 聡	学識経験者	監事	米原章太郎	学識経験者

ボランティアセンター事業

- ボランティア活動の需給調整
4件
- ボランティア団体活動助成
13団体 255,000円
- 介護支援ボランティア事業
ボランティア登録者数19人、活動回数延410回
- 学生服リユース事業
制服提供5件、利用申込1件

法人運営事業

- 会議
理事会4回 評議員会3回 監事会1回
評議員選任・解任委員会4回
社協のあり方検討会2回
- 役員研修の実施(内部研修開催0回、外部研修参加4回)
- 職員研修の実施(内部研修開催7回、外部研修参加23回)

施設管理事業

指定管理者として町立福祉センターの施設管理を実施
有料入浴者数4,120人、
無料入浴者数4,201人

募金活動への協力 (三朝町共同募金委員会)

赤い羽根共同募金実績
1,232,216円
歳末たすけあい募金実績
1,033,053円

町受託事業

- 外出支援サービス
利用回数 月平均18回
- 配食サービス
利用食数 月平均754食

令和4年度 三朝町社会福祉協議会 事業報告

地域福祉活動の推進

○小地域ネットワーク事業の充実

集落福祉活動の推進

- ・山田一区、三朝区（支え愛マップの作製） ・上西谷区、三軒屋区、下西谷区（学習会への職員派遣）
- 愛の輪運動 一人暮らし高齢者等の見守り、対象者25人、訪問員24人
- 救急医療情報キットの配布 総配布数389世帯
- 福祉関係者合同研修会 3月5日開催 参加者61人

○ボランティア配食サービス 年55回、632食を配達、調理ボランティア延245人、配達ボランティア延207人

○生活支援コーディネーター事業（町受託） 居場所づくり支援、17集落でのサロン開催

○サロン事業（町受託） いきいき元気サロン開催42回、延473人参加

○ショッピングデイサービス（町受託）

介護予防と買物支援を一体的に実施。吉田区12回、延104人。西小鹿区8回、延12人。小河内区11回、延89人。

○高齢者の閉じこもり・介護予防、生きがいづくり事業の推進

地区別高齢者交流会の開催 66回、延利用者874人

○総合相談所 開設12回、相談受付15件、相談員研修2回実施

○福祉資金貸付 0件

○生活福祉資金貸付（県社協受託） 新型コロナ特例貸付2件

○日常生活自立支援事業（県社協受託） 利用者数5人

○生活困窮者自立支援事業（県受託） プラン策定2件

○福祉教育推進事業の実施

車いす体験 小学4年生46人

トライワークみささ受入れ 三朝中学校2年生2人

○福祉教育の推進

福祉教育推進活動助成

小・中学校、保育園 155,800円



いきいき元気サロン

介護保険事業

○居宅介護支援事業

ケアプラン及び介護予防プラン作成 月平均104件

要介護認定調査受託 月平均6件

三朝町地域包括支援センター連絡会参加3回

○通所介護事業 利用者 月平均430人

・利用者拡大、満足度向上に向けた取組み

・季節行事・外出行事の実施

・ゆけむりだよりの発行6回

・個別支援の強化（趣味活動や機能訓練の取組み）

・中部ふるさと広域連合介護認定審査会委員派遣13回

○訪問介護事業 利用回数 月平均198回

障がい福祉事業

○障がい者地域生活支援事業

利用者 月平均7人

・健康づくりの推進、季節行事及び
外出行事の実施

○障がい者居宅介護事業

利用回数 月平均39回

○重度障がい児者医療型ショートステイヘルパー付添事業（県補助事業）

利用回数 月平均0.1回

令和4年度決算

収入	決算額	備考	支出	決算額	備考
会費	3,318,835	一般会費、賛助会費、特別会費	法人運営事業	8,715,365	運営事務費、会議費等
寄付金	1,645,000	香典返し寄付、一般寄付	地域福祉事業	12,287,573	ボランティアセンター事業等
補助金	26,926,000	町、県社協	共同募金事業	1,893,110	広報事業、福祉団体助成等
受託金	27,982,108	町、県、県社協	介護サービス費	77,830,391	介護保険事業、障がい福祉事業
共同募金配分金	1,978,917	赤い羽根共同募金、歳末たすけあい	町受託事業	17,359,879	配食サービス事業等
介護サービス	76,130,552	介護保険事業、障がい福祉事業	県、県社協受託事業	9,093,931	生活困窮者自立支援事業等
事業収入	1,385,880	入浴料等の利用料	施設管理事業	16,479,371	福祉センター管理運営費
その他	38,024,136	繰越金、預金利息等	繰越金	33,731,808	
収入合計	177,391,428		支出合計	177,391,428	

法人化50周年 三朝町社会福祉協議会の歩み

年度	出来事
昭和48年	社会福祉法人三朝町社会福祉協議会設立 (それ以前も三朝町社会福祉協議会は存在) 社協の事務所は役場庁舎(現在の三朝温泉観光工センター)の一角にありました。
昭和51年	【実施事業】・調査活動の実施・心配ごと相談所運営・老人憩いの家(やすらぎ荘)運営・家庭奉仕員派遣事業・世帯更生資金貸付事業・共同募金事業・福祉団体助成
昭和52年	【予算規模】約1,200万円
昭和53年	社協事務所が役場新庁舎(現在の庁舎)の一角に移転
昭和54年	広報誌「社協だより」(現在の福祉みささ)第1号発行
昭和55年	賛助会員制度新設
昭和56年	葬儀用祭壇(仏式2基、神式1基)貸出事業開始
昭和59年	心身障がい者への実態意向調査を実施
昭和61年	国際障害者年長期計画事業の一環として障害者福祉大会を開催 催 100名参加
昭和62年	第1回三朝町ふれあい広場開催 250名参加
昭和63年	社協事務所が役場庁舎裏の建物に移転
平成元年	地域福祉県民運動推進事業として「愛の輪運動」開始 組織体制見直し 理事10名から12名に。 評議員を理事から分離して35名選任
平成2年	法人対象に特別会員制度新設 老人憩いの家(やすらぎ荘)で一人暮らし高齢者入浴サービス開始 町内6地区で「一人暮らし高齢者の集い」開催 老人憩いの家(やすらぎ荘)で、デイサービス事業を開始 【予算規模】約5,700万円

年度	出来事
平成4年	町立福祉センターがオープン。社協事務所も福祉センターに移転
平成5年	【予算規模】約1億1,000万円 【職員体制】22名
平成6年	民間助成制度を活用してマイクロバスを整備 広報誌「社協だより」を「福祉みささ」に改名 法人化20周年
平成8年	町ボランティアセンター開設。ボランティアに関する町民意識調査を実施
平成9年	特別養護老人ホーム「三喜苑」が横手にオープン
平成11年	デイサービス事業をA型に移行し、重度利用者の受け入れを強化 入浴車による訪問入浴サービス開始 町ボランティア連絡協議会発足 国の「ふれあいの町づくり事業」の指定(5年)を受け事業型社協を推進 作業所を「知的障がい者デイサービス事業」に移行(町受託) 移送サービス開始 46集落で福祉座談会を開催、介護保険制度について説明
	
	介護保険事業所開設(平成12年)

年度	出来事
平成12年	介護保険制度スタート。県指定事業者として介護保険事業開始。 【予算規模】約1億9,300万円 【職員体制】38名
平成15年	天神川流域社会福祉協議会合併協議会設立(平成の大合併準備。三朝町は合併せず) 障害者支援費制度スタート。事業者としてデイサービス事業、ホームヘルプ事業を開始。
平成18年	障害者自立支援法施行。県指定事業者としてホームヘルプ事業を実施。
平成20年	災害救援ボランティア活動マニュアルを策定
平成21年	住民福祉意識調査を実施
平成21年	災害救援ボランティアセンター模擬訓練を実施
平成23年	東日本大震災発生 救急医療情報キット事業開始
平成27年	日常生活自立支援事業開始(県社協受託) 判断力が低下した人への福祉サービス利用援助や日常的金銭管理を支援する 生活困窮者自立支援事業開始(県受託)
平成28年	介護支援ボランティア事業開始(町受託)
平成28年	鳥取県中部地震発生 三朝町生活支え愛センター(災害ボランティアセンター)を設置
平成29年	いきいきサロン事業開始(町受託) 生活支援コーディネーター配置(町受託)
平成30年	7月(西日本)豪雨発生
令和元年	支え愛マップ作成の取り組みが始まる(吉田区) 学生服リユース事業開始
令和3年	ショッピングデイサービス事業開始(町受託)
令和5年	【予算規模】約1億6,400万円 【職員体制】27名



支え愛マップ作成

《寄付紹介》

「ありがとうございます」

◆香典返し寄付者

片柴	福本 博司様 (故悦子様)	金一封
助谷	近藤 正徳様 (故恒江様)	金一封
吉田	山本 賢様 (故美都里様)	金一封
曹源寺	安本 和之様 (故幸江様)	金一封
牧	谷川 道朗様 (故ちづ子様)	金一封
倉吉市	舟木 春子様 (故岩崎秀野様)	金一封
倉吉市	岡崎 信子様 (故薫様)	金一封
大瀬	福山 博正様 (故愛子様)	金一封
西小鹿	秋崎 順次様 (故たけ子様)	金一封
三徳	津村 猷徳様 (故操子様)	十万円
山田	三木 卓也様 (故功子様)	金一封
横手	小椋 美子様 (故重治様)	金一封
倉吉市	坂出 茂樹様 (故智智子様)	金一封
砂原	藤井 佳臣様 (故定代様)	金一封

◆一般寄付者

横手 中山イツ子様 (地域福祉のために) 五千元

※寄付者及び寄付金額の記載は、寄付者ご本人の了解をいただいています。なお、金一封の記載は金額の多少に関わらず、寄付者のご本人の意思によるものです。

話を聴かせて

法人化50周年 特別編



高橋区 岸田眞智子さん
(92歳)

三朝町最初の家庭奉仕員(ヘルパー)の岸田眞智子さん。当時の仕事の様子や現在について聴きました。

—家庭奉仕員になったきっかけ

高橋区で皆が自動車免許を取得し始めて、夫に「免許取っといたら」と言われ自転車にも乗れなかったけど一念発起して学校に通いました。免許を取って何かしらの仕事が出るようになったと思います。そうしたら社協から家庭奉仕員の募集が出ていることを役場に勤めていた知り合いが教えてくれたのです。応募して昭和46年6月に採用されました。当時の社協は、今の商工センターの所にあった役場の中がありました。年に一回行くかどうかの役場の中で勤めるのは最初ぎょうとかったです。

—家庭奉仕員として勤めてみて

利用者さんの自宅にはバスで行っていません。バスの本数も少なかったの



更生保護活動

で竹田に行つて戻つたら1日仕事でした。ある時、時間の都合でどうしようもなく自分の軽トラで行こうとしたら、役場の職員が「許可はとつたがかえ」と言つので「許可があるうがなかるうが、これに乗らんと仕事になら

ん」と言い返して仕事に出たこともありました。一緒に家庭奉仕員をしていた人はご自身の原付で行っていたこともありました。その後、中古の軽自動車が用意されて、だいぶ仕事やりやすくなりました。

寝たきり高齢女性の利用者さんを訪問した時に、その人の枕元で主人と日頃の様子等について話をしていると、「おじいさんとばかり話して」と怒られたことがあります。本人さんときちんと話をしないといけないと反省しました。利用者さんにとっても家庭奉仕員をする自分にとっても全てが初めてなのでわからないことだらけでした。もちろんわからないままではダメなので研修にいっぱい参加しました。中部においても、もちまわりで研修を行いました。同じ家庭奉仕員の仲間がいるのは心強かったです。特に北条の日置さんは福祉の短大を出ていたらしく、本当にお世話になりました。

利用者さんの具合が悪くなった時には岡本先生と一緒に訪問しました。いろんな人に助けてもらいながら勤めることができたと思っています。

—退職後そして今

配食ボランティア「野菊の会」でお弁当づくりをしたり、民生委員をさせてもらったりしました。仲間と一緒に



高橋公民館サロン

に活動して素敵な時間を持てました。家庭奉仕員時代に、飲み水がなくなつて枕元の手洗い水を少しずつ口に含んでいた、と寝たきりの利用者さんから聞いたことがあります。「誰か近所の人が声をかけ見回つてあげたら飲み水の不自由もなかっただろうに、話し相手がいたなら寂しさもまぎれただろう」と同僚といつも話し合っていた、あの頃の想いがいろんな活動の原動力になっていたと思います。今は自宅でのんびり過ごしています。週に何回か、高橋の友達と一緒にデイサービスを利用しています。デイサービスでは初めて利用する人にトイレの場所を教えたり、お膳をさげるの手伝ったりしています。初めての人は「わからんこともわからん」状態だと思っています。そういう人が困ることがないようにしゃまこいてます(笑)。